

日本丸の船旅 2021



2021年12月

旅のチカラ研究所 植木圭二

日本船籍のクルーズ船「日本丸」に乗って2泊3日のクルーズを体験してきた。先に感想を言ってしまうと「こんな贅沢な旅をしていいのだろうか」という一語に尽きる。私にとってそれほど満足できるクルーズになった。

第一章 クルーズ初日

■横浜大栈橋ホールにて

本日は15時頃に日本丸に乗船する予定だが、私たちが指定された集合時間は13時45分で、集合場所の横浜大栈橋ホールに到着するとすぐに新型コロナウイルス感染症（以下コロナ）のPCR検査を受けた。

そして今、私たちはそのホールでPCR検査の結果が出るのを待っている。

検査の結果が出るまでは日本丸のフィットネス教室のスレンダーな美人インストラクターが椅子に座っての体操を指導してくれるなどもあって飽きることはない。

それにしても1週間前にもPCR検査キットが自宅に送られてきて検査をしており、念には念をということになっている。この徹底ぶりとサービスに対して敬意を払うとともに、何よりも久しぶりにクルーズに行けるという喜びを噛みしめている。

乗船を待つ間、私は妻とこの日本丸に乗る経緯についてあれこれと話を始める。

それは英国の豪華客船クイーンエリザベスに乗船した時に、クルーズ歴100回以上という紳士との会話がきっかけだ。世界中の有名な船にほとんど乗ったという彼に対して、私はどの船が良かったですかなどと漠然とした質問では答えようがないと思い、「どの船の料理が一番美味しかったですか？」と聞くと、彼は「そうですね、日本丸ですかね」と答えた。さらに妻がその理由を聞くと「日本丸は船が小さいので、作りたての料理が出されるから」と返ってきた。私たちはその説明に納得し、いつか乗船しようと計画していた。

それから2年以上経過してしまっただが、その間に私たちは3回も乗船予約をしてコロナのためことごとく直前キャンセルになっていた。しかしその都度船会社からはお詫びとして1万円のクーポン券が届き、都合3万円も貯まったのは幸運かもしれない。コロナは船会社が悪い訳ではないのに、そんなところにも日本丸の誠意が感じられる。



【日本丸 横浜大棧橋にて】

■乗船

いよいよ乗船になる。

エントランスやレセプションは私が今まで乗って来たクルーズ船の中ではかなり質素な方だろう。他の船では見られる歓迎の生演奏などもない。



【レセプション】



【エントランスの2階】

船室に入って荷物を置くと、直ぐに7階のプールサイドにあるリドテラスに行って軽食を注文する。私たちは日本丸に初めて乗船するので、そこにそのような場所があるということを知っている訳ではないが、クルーズ船の場合はいつでも何か食べさせてくれるカジュアルなレストランがプールサイド付近にあるのが一般的で、私たちは最初にそのような場所に行くことを常にしている。こんなことも2年ぶりになるので、実に懐かしい。

注文したのは一口サイズのハンバーガーとブルドポークサンド、ゴディバのチョコリキサーで、チョコリキサーは若い女性に人気があって、周囲のテーブルでは多くの女性たちが飲んでいる。

私たちがテーブルで待っていると、スタッフがやってきてテーブル番号と私たちの乗船証を端末に読み込んでいる。理由を聞くと、コロナが感染した場合に誰が、何時、何処に座ったかを後から確認できるためという。この徹底ぶりには私は正直驚いた。



【チョコリキサーとハンバーガー】

ここはプールサイドのテラス席で、船の専属バンドが音楽を演奏してくれている。曲目は主にビートルズで、私にとっては馴染み親しんだものなので久しぶりのクルーズとしては申し分のない演出になっている。

■アフタヌーンティー

部屋に戻ろうとするとホライズンラウンジでアフタヌーンティーを提供している。シュークリームとリンゴのジャムサンドイッチと入口のメニューにはある。

私はコーヒーだけ注文するが、妻はシュークリームと紅茶を注文する。先ほど食べたハンバーガーは何処に行ったのだろうか。

美食の日本丸の旅は太りそうな予感がする。



【アフタヌーンティー】

■船室

船内の散策が終わり、船室に戻って来る。

私は一番ランクが下のスタンダードクラスの部屋を予約していたのだが、ひとつ上のクラスのコンフォートクラスになっている。そのことをフロントで聞くとスタンダードクラスの部屋はコロナ対策の備品置き場や感染者が出た場合の隔離に使われるので船会社が勝手に、いやありがたいことにワンランクあげてくれたことを知る。

船室はパッと見た目に小奇麗で、床や壁、カーテンなども新しい。さすがに最近リニューアルしたことがうかがえる。その上で機能的な造りをしており、ベッドが2台あって片方のベッドの上にはもうひとつベッドがあり、今は跳ね上げられて収納されているが実は3人部屋にもなる。それゆえロッカーや引き出しも3人分ある。

冷蔵庫、テレビなどももちろん揃っており、シャワーとトイレ、洗面所がコンパクトにまとまっているのは言うまでもないが、便座にはウォッシュレットも付いている。これも日本船ならではの配慮かもしれない。まあ、最近ではJALの飛行機に乗ってもウォッシュレット付きもあるのでそう驚くことでもないかもしれない。

部屋の片隅にあるコーナー型のソファは普段1人か2人しか座れないが、ソファを分離して丸テーブルの反対側に持ってくると3人用の椅子とテーブルに早変わりする。お湯を沸かす小さな電磁調理器は机の脇の壁に収納されて実に上手い造りになっている。机の天板はガラスでできていて引き出しの中に何が入っているか一目瞭然なことも実に良く工夫されている。

■大浴場にて

待ちに待った出航になる。船は大棧橋からゆっくりと離れて行く。

日本船籍の船の楽しみのひとつは大浴場があることで、私は早速大浴場に行く。船室にもシャワーはあるが、やはり心身のリフレッシュには大浴場は欠かせない。



【大浴場 ブラインドが降りている時に撮影】

大浴場はそれなりに大きく、ジャグジーとジェットバスを備えた大きな湯船が2つあってサウナも付いている。残念ながらサウナはコロナのため閉鎖されているが、大きなガラス窓によって外が見えるようになっており、大海原を見ながら入浴を楽しめるようになっているのがありがたい。

降りていたブラインドをあげると横浜の夕景が見えており、間もなくすると船は横浜ベイブリッジの下を通り抜ける。入浴しながら、そんな光景を楽しめるのは日本船籍の船だからだろう。

大浴場には私以外にもう1人乗客がいて、話しかけると日本丸の常連らしい。彼は他のクルーズ船にも何度か乗っているが、日本丸に一番多く乗っているという。その理由を聞くと日本丸の料理が群を抜いているからだと言う。

私同様にこの1年半で何度か予約をしたが、その都度コロナによってキャンセルになったという。中にはクルーズ途中でコロナ感染者が出て引き返したこともあるという。

その話に興味を持った私は「途中で引き返すと料金はどうなるのですか？」と聞く。それに対して彼は「中止を決めたところまでの費用だけで、あとは返金されました」と言う。つまり7日間のクルーズで3日目が終わったところで中止を決めたので、費用は3日分だけになり、そこから帰りの航海は無料になったという。

その後もクルーズの話で盛り上がり、彼は今度の正月も日本丸だと言う。昔は温泉旅館で年を越していたが、日本丸に乗ったら、おせち料理のクオリティが全く違うことに感激したと力説する。以来毎年年越しは日本丸に乗船しているというから、それほどに彼を動かす日本丸のおせち料理に私は興味を持ち始める。

そのことを船室に戻って妻に話すと、妻は「来年の年越しは日本丸ね」と、こちらもやる気満々である。

■夕食

いよいよ美食の船のディナーになる。今回のクルーズでは夕食時の服装を規定するドレスコードは全てカジュアルなのでノーネクタイにジャケットという気楽な服装でレストランに行く。

メニューを見ると豪華そうな料理名がずらりと並んでいる。それらの料理が約1時間半かけて出てくる。その感想を付け加えてメモに残しておく。



【様々なお野菜とブロッコリーソース】

ソースの食感と味は驚きだ



【オニオングラタンソース】

玉ねぎを相当煮込んだ逸品



【ズッキーニ巻き海老ムースと平目のワイン蒸し】

海老ムースが抜群だ



【洋梨のグラニテ】

メインの前にジェラートとは



【低温ローストした牛フィレ肉の炭火焼き】

肉が柔らかく、炭火焼きの香りがたまらない



【リンゴとヨーグルトのムース パイナップル】

パイナップルは実に美味しい

この他に日本丸特製白パンとジャーミーブレッドが出されて、バターが実に美味しい。最後はコーヒー、エスプレッソ、紅茶が出てくる。

初日のディナーは文句のつけようもない。味は言うに及ばず、種類も食材もバラエティに富んでおり、腹いっぱいにはならずちょうど良い分量になっているのがこれもまた素晴らしい。

地方の旅館などに泊まるとひたすら皿の数にこだわる“これでもか攻撃”が多いが、それをしないところが印象的だ。

■エンターテイメント

クルーズの夕食の後はダンスかエンターテイメントと相場が決まっている。今回のクルーズではダンスのイベントはないようで、ダンスホールを兼ねた演劇やコンサートを行うドルフィンホールでは今宵は船の専属バンドの演奏と歌が楽しめる。

司会はこの船のクルーズディレクターと自己紹介する中年のおじさんが務める。彼の柔らかい語り口から発する言葉には教養や音楽へのこだわりが感じられる。この中年おじさん、いや紳士はただ者ではではない。さすが日本丸のクルーズディレクターは一味違うようだ。

専属バンドは先ほどプールサイドでは3人だったが、演奏者は6人増えて、さらにツインボーカルの男女2人も加わり合計8人のステージになっているから、音楽も幅が広がっている。



【日本丸の専属バンドのステージ】

コンサートは1930年代の古き良き洋楽から始まり、その後の進化を絶妙な語りで説明して演奏される。そしてフィージョンとして渡辺貞夫の曲も演奏してくれる。私は学生時代に渡辺貞夫をよく聞いていたので実に懐かしい。最後のアンコールは桑田佳祐とミーシャの歌で終わる。

老若男女の各世代に受け入れられるような選曲になっており、クルーズディレクターの苦心の跡が感じられる。

曲目だけでなく演奏が上手いのも特徴かもしれない。妻はギター奏者が非常に上手いと感心している。私は渡辺貞夫の曲を吹いていたアルトサックスの奏者に目が行ってた。

■夜食

本日の最後のイベントは夜食だ。美食で有名な日本丸の夜食となればこれもまた期待してしまう。幸いにしてディナーが腹八分目だったので私の胃袋にはまだ入る余裕がある。

夜食メニューは鴨南蛮そば、稲荷寿司、小豆のオムレット、香の物、フルーツ、そして私はそれら全部注文する。各々は少量ながら、さすがに多いかと思っただが、何とか食べてしまうから恐ろしいものだ。もちろんこれらはクルーズ代金に入っており、美食の日本丸を研究するとか言いつつも、ついつい食い意地が張っている自分に気が付く。それにしても鴨南蛮そばは実に良い味を出していて、私は汁まで全て飲み干してしまった。

鴨南蛮そばは汁物なので無理だが、それ以外はテイクアウト可能で、船室で食べることもできる。これは本当に至れり尽くせりだ。



【夜食 左は稲荷寿司、小豆のオムレット、フルーツ 右は鴨南蛮そば】

第二章 クルーズ中日

■早速大浴場へ

私は朝早く目が覚めてしまい、ベッドの中から外の様子をうかがっていると徐々に水平線の上が見えてくる。6時になり、かなり明るいけど、日の出までもう少しだ。私は朝6時にオープンする大浴場に行きたい気持ちを抑えながら、日の出を待っている。

船内新聞「Port&Sterboard」によると本日の日の出は6時20分となっている。確か日の出の定義は太陽の上の端が水平線と一致した状態をいうので、本日は雲が水平線上に多少あるのでその時刻を過ぎても太陽は顔を出さない。

私は船室から日の出を見るのを諦めて大浴場で見ると決める。

大浴場に行くが、そこからでは日の出が見えないことが分かる。それは私たちの船室は船の右舷にあるが、男性用大浴場は左舷後方にあるからで、今の船の向きでは大浴場から東の空を臨めない、つまり日の出は見えない。

しかしその代わりに陽光を受けた富士山が見える。これは素晴らしい。思わず得をしたような気分になるから人間とは現金なものである。

大浴場で朝焼けの富士山を拝みながらの入浴は格別だ。幸いにしてお客は私以外に2人しかいない。そして彼らはまだ陽光を受けた富士山に気が付いていないので、私は富士山を指さして話かけると、幸先の良い日になりそうだと喜んでいる。

浴室から出て脱衣場を見渡すが、体重計が置いていないことが分かる。それは意識的に置いていないのかもしれない。美食の船としては「太ることを気にしないで食べてください」という暗黙のメッセージにもなっているような気がする。

■朝食にラーメン

朝食には、そのメッセージどおりに太ることを気にしないでと言わんばかりの料理が並ぶ。

メニューは和食、洋食から選べるが、どちらを頼んでも共通のチョイスメニューがあって、納豆、梅干し、特製ビーフカレー、オートミールなどが選べる。そして本日はスペシャルチョイスメニューとして朝ラーメンが選べるとウエイターは言っている。私も妻も和食を選び、興味本位に美食の船の朝ラーメンも注文する。

出てきたのはハーフサイズの「博多鶏白湯ラーメン」で、比較的あっさり系で食べ易い。朝ラーメンと聞いて多少躊躇していたが、ベトナムに行って朝食にフォーを食べるような感覚だ。

隣のテーブルでは特製ビーフカレーを食しているから、それもまた凄い。やはり太ることは気にしてはいけないようだ。



【朝食 左手前がラーメン】

参考までに和食のメニューを書き残しておく。これに朝ラーメンが追加になる。

煮干し出汁の味噌汁は揚げ豆腐と茄子の具、銀鱈照り焼き、染鬼御大根、たくあん、巻き焼き玉子、元八郎（博多屋台の納豆料理）、牛肉と豆腐炊き合わせ、蒲鉾とチーズ、芋、胡瓜のコチュジャン和え、ヨーグルト、本日のフルーツにミカンとスイカとシャインマスカット。ご飯はお粥、白ご飯、鮭と白菜の豆乳粥の3種類から選べて、私は豆乳粥を選んだ。

朝からこれだけのご馳走とは、やはり脱衣場に体重計を置かないはずだ。

■伊豆諸島周遊

朝食後に昨日も訪れたリドテラスにやってきてコーヒーを注文する。まだ人はほとんどいない。

伊豆大島の南にある利島が大きく見える。私は利島をこんな近くで見るとは初めてで、少し感動する。



【利島 その向こうに伊豆半島、そして富士山が見える】

利島から新島に向かうにつれ、船は速度を落とし始めている。船内新聞によると新島の名所「白ママ断層」を沿岸から見物するイベントは10時頃になっており、そのための時間調整だろうが、船足が遅くなると、時間の流れも遅くなったような気分になり、たまらなく贅沢に感じられる。

船内放送で船は間もなく新島に接近するとのアナウンスがあつて、多くの乗客が7階のデッキに集まって来る。新島の白ママ断層が目の前に広がる。断層というよりも白い大きな山肌で、これは新島に上陸しては見ることはできない。



【新島の白ママ断層】

大きな新島に隠れて小さな式根島があり、やや離れて神津島もある。船が少し左旋回して右舷には三宅島、その向うには御蔵島も見える。

私は地図の上では伊豆諸島の各島の位置関係を知っていたつもりだったが、今初めてそれが自分のものになったように思える。



【左から神津島、真ん中は無人島の早島、その右奥が式根島、右は新島】

昼前、腹が空かないので再び大浴場に行く。船が進路を変えて利島の北側を西に向かっており、そのため大浴場から利島、新島、式根島、神津島、さらに三宅島、御蔵島まで見える。こんな豪華な出演者たちのステージを見ながら入浴できるのは贅沢の極みだ。

■初めての昼食

昼食は6階の船尾にある「オーシャンダイニング春日」で洋食を食べる、このレストランは上のクラスの船室の乗客が夕食を食べるところだが、昼食は私たちもここで食べることができる。

本日のランチとディナーは東京飯田橋の高級フランスレストラン「ソンプルイユ」の料理が出てくるということで妻は多めに期待し興奮している。

実は午前中に私が大浴場で伊豆諸島を見ながら入浴を楽しんでいる間、妻はソンプルイユのシェフのデモンストレーションというイベントに参加していた。シェフの料理に対する“こだわり”の細部を見聞きしてきたところだから、妻が興奮する理由はある程度理解できる。

スープにサラダ、そしてメインはドライカレーということで、私たちは最初ドライカレーと聞いて少し躊躇していたが、食べてからそれは一変する。

サラダは普通としても、野菜のラッサム風スープが実に美味しい。

ドライカレーは今まで私が知っているドライカレーではない。少量の白米の上にドライカレーが乗って、その上に半熟の卵黄が乗っている。それを囲むように6種類のトッピングがあり実に多彩な味を楽しめる。

親切なことにそのトッピングを書いたメモも皿に付いている。大豆のヨーグルトシチュー、ピーマンのスパイスソテー、オクラのスパイス和え、赤キャベツのアジOWN風味、人参のポリアル、スパイスポテト、どのトッピングも絶品の味だ。



【サラダとスープ】



【ドライカレー 左上にトッピングメモ】

食事が終わる頃には船は伊豆半島先端の石廊崎付近を航行しており、レストランは船尾にあるので航跡の向こうに利島を中心に伊豆諸島が見える。そして右舷を見ると石廊崎、その先に富士山、その左前方の彼方に南アルプスの雪山まで見えるから驚きだ。

■アフタヌーンティー

アフタヌーンティーに行く。これもソンプルイユとのコラボレーションになっている。

フランスのボルドー地方で誕生した伝統的焼き菓子「カヌレ」、そしてケーキ「ケイク・オ・テ」も出てくる。アフタヌーンティーは英国の貴族が始めたものだが、この船では英国を離れてフランスのものになっており、多少の違和感を感じる。

しかし「ケイク・オ・テ」は英国に由来する意外な材料で作られている。

グレイ伯爵という人物は英国の貴族だが、彼がベルガモットをブレンドさせて作ったフレーバーな紅茶がある有名なアールグレイだ。その紅茶の茶葉を使ったケーキが「ケイク・オ・テ」だというから、結果としては英国由来のものになるのだろう。

その味はもちろん紅茶のアールグレイではない。そして妻はこのケーキに感激している。



【手前がカヌレ、奥がケイク・オ・テ】

音楽は渡辺貞夫の LP レコードがかかっており、私はケーキよりもむしろ音楽に聞き入ってしまう。スタッフに聞くと船の専属バンドのサクソ奏者が大の渡辺貞夫ファンだというから、同じ渡辺貞夫のファンとして私は妙に親近感を感じてしまう。

渡辺貞夫は知る人ぞ知る日本を代表する実力派 JAZZ プレイヤーで、アルトサクソやフルートの奏者で作曲もする。JAZZ でありながら世界各地の音楽を取り入れてマイディアライフやカリフォルニアシャワーなどの名曲がある。

この日本丸にはその渡辺貞夫が似合うようだ。渋い感じだが、実力があって、新しいことにも挑戦して世界に出で行く。ちょっと褒めすぎか。

■夕食まで

夕食まで時間があり、腹を減らすためにまたまた大浴場へ行く。大浴場からは富士山が目の前に広がる。船は駿河湾の奥に入ってきた。

本日のエンターテインメントはレイ・ヤマダ（山田麗）という女性歌手のステージで、申し訳ないが私は彼女の名前を初めて聞く。

彼女は30才くらいの中堅の女性実力派歌手だ。司会の紹介では東京生まれシンガーソングライターで、2013年にデビューし、アルバム3枚 シングル1枚をリリースしている。2018年、舞台「Ay 曾根崎心中」の主役の歌役として出演した。この作品は阿木燿子プロデュース、宇崎竜童が音楽を担当しており、この夫婦とも親交があるという。

歌唱力は実に素晴らしい。ヒット曲がないので一般にはあまり知られていないのが残念だ。

■2回目のディナー

本日のディナーもランチ同様の高級レストラン「ソンプルイユ」が提供する。



【ディナーのレストラン入口にて】

最初の料理はビーツのヴェルデは「一口のお愉（たの）しみ」という紹介だ。氷が入った赤い液体で冷やす容器で出てきた。ムースのようなソースのような口当たりで、私が初めて口にするような味で美味い。妻の説明では、料理加工技術の進歩で泡状に噴射できる器具が開発されたからこのような料理ができるようになったと言っている。



【ビーツのヴェルデ】

「オマール海老とサーモンマリネのサラダ仕立て レギューム ハーブ」は皿の模様と書いていたものが、食べ終わってソースで書かれていることだと分かる。



【オマール海老とサーモンマリネのサラダ仕立て レギューム ハーブの食前、食後】

その後も「サラダ菜にスープとオニオンロワイヤルにアサリ、そして真鯛のカダイフ巻きシトロコンフィにトマトとベルジェ」と続く。もちろん味は絶品だ。



【サラダ菜にスープとオニオンロワイヤル】

【真鯛のカダイフ巻きシトロコンフィ】

「日本丸就航30周年記念シャンパーニュのグラニテ」は本物のシャンパンを使っている。一般的なスパークリングワインではなく、高級品のシャンパンを使うところにこだわりがあるのだろう。

メインの「国産牛フィレ肉のグリエ」は言うまでもなく柔らかくて美味い。どうしたらこんなに柔らかく肉を仕上げられるのか妻は不思議がっている。



【シャンパーニュのグラニテ】

【国産牛フィレ肉のグリエ】

「イチゴのスープ レモングラス ココナッツのメレンゲ」はデザートとは思えない盛り付けで、アルコールも入っており大人に味に仕上がっている。



【イチゴのスープ】

全体的には素晴らしい出来栄の料理ではあったが、妻も私も昨夜の料理の方が良かったような気がするという意見で一致する。昨夜は日本丸オリジナルのコースだが、今夜の料理はソンプルユに完全に任せたようで、やはり私たち庶民にとってソンプルユは雲の上の存在かもしれない。

■ディナーの後

昨夜と同じレイトナイトステージに行く。昨夜と同じ船の専属バンドが演奏してくれる。

アメリカの音楽ということで、エルビス・プレスリーなどの懐かしい音楽から始まる。そしてイーグルスのホテルカリフォルニアも演奏し歌ってくれる。あの独特の長いイントロを再現してくれる。私はもちろんイーグルスの生演奏は聴いたことはないが、コピーとはいえ初めて生でのイントロ演奏を聴けるとは感無量だ。

今夜も夜食を食べに行く。海老そば、五目焼きめしのおにぎり、香の物にスイーツまで付いている。海老そばはなかなか美味い。おにぎりもいける。スイーツは少し甘すぎると妻が言っている。



【2日目の夜食】

第三章 クルーズ最終日

■3日目の朝

朝起きてまずは6時ちょうどに開く大浴場に行く。珍しく混んでおり洗い場がいっぱいになっている。それでも10分もすると2~3人になる。

とにかく朝から風呂に入れるのはありがたい。外国船籍の船でもダイヤモンドプリンセスなどにも大浴場がある。しかし有料で、確か1500円だったので入りたい放題の日本船とは違う。

朝食は本日も和定食を注文する。昨日は朝ラーメンを食べたが、本日は日本丸特製ビーフカレーを注文してみる。カレーは普通に美味しいものの、特製という言葉に期待し過ぎたようだ。

面白いのは味噌汁で、シジミの味噌汁に温泉卵が入っている。これは珍しい組み合わせになっており、私にとってはもちろん初体験で味は想像できると思うが、結構いける。

■最終日も最後まで楽しむ

朝食後「レコードで辿るジャズの歴史」というがあるので行ってみる。約1時間でJAZZの歴史を辿るという企画で、ルイアームストロングに始まってマイルスデイビスまでのLPレコードをかけながらDJが説明するというレコードコンサートだ。DJは昨夜のクルーズディレクターの中年おじさんがやっている。なかなか掘り下げられた内容の独特の語り、彼の世界に入り込んでしまう。

最終日の午前中までゆったりとした時間が流れていることに酔いしれながらジャズを楽しむ。

11時30分、最後の入浴をする。大浴場にはもはや人は誰もいない。ここでもゆっくりと時間が流れている。浴室を出る時に私は思わず「また来るよ」と言葉を発してしまう。

妻はドルフィンホールで行われていたビンゴゲーム大会から帰ってきた。興奮しながら「最後に残った人、つまり何も当たらなかった最下位の人が3万円の乗船クーポンをもらったよ」と、えらく感激している。私にはビンゴゲームで最後に残るとはどのような状況なのかよく分からないが、とにかく妻は感激している。

最後の昼食は6Fの「オーシャンダイニング春日」で洋食を食べる、本日のメニューは3種のサンドイッチで、全粒粉ブレッドのサルシッチャサンド、ライ麦ブレッドのタンドリーチキンサンド、スペルト小麦のビーンズミートサンドで実にバラエティに富んだ3つのサンドイッチが出てくる。もちろん全て美味しい。



【最終日のランチ 左がサラダとスープ 右は3種のサンドイッチ】

■アフタヌーンティー

そしてアフタヌーンティーに行くと、特製プリンがまたしても抜群に美味い。プリンだけお代わりをお願いする乗客もいる。

アフタヌーンティーを楽しみながら、今回の旅の費用を妻と相談しながらはじき出してみることにした。と言っても実際にかかった費用ではなく、クルーズは宿泊、移動、食事という要素で構成されているので、ホテル代としてはいくら、料理がいくら、エンターテイメントがいくら、というように分解して1人当りの費用を算出してみる。

- ・展望風呂とプール付きのリゾートホテルとすると
宿泊費は1泊朝食付2万円、2泊で4万円
- ・ディナーは1万5千円が2回で3万円
- ・ランチは5千円が2回で1万円
- ・夜食は千円くらいだろう、2回で2千円
- ・アフタヌーンティーは2千円として、2回で4千円
- ・エンターテイメントは朝昼晩全て1日1万円として、
2日で2万円
- ・船は移動手段だが、今回は伊豆諸島や駿河湾の遊覧船
として1万円

それらの合計は、1人当たり12万円くらいになる。クルーズ代金もそのくらいなので私たちは納得する。



【アフタヌーンティー会場入口】

■船について

最後にプールサイドのリドテラスでは特製ハンバーガーをテイクアウトで注文する。もちろん土産にするためだが、快く応じてくれる。

コーヒーを飲みながら日本丸についてあれこれ思い起こしてみる。

乗組員は全体的に若い人が多い。フロントや案内係は日本人だが、ウェイターや船室のベッドメイキングなどはほとんどが外国人で、フィリピン人が多い。

日本人乗組員と話す機会があって、私が今回のクルーズには美食を求めて乗船したことやその感想などを話す。彼は「そういうお言葉は励みになります。小さな船ですが、私たちが料理のクオリティと暖かい雰囲気作りには特に気を遣っています」と話してくれた。乗組員も自分たちのポジションを良く分かっているように思える。

総トン数約2万2千トン、全長約166mで昨今のクルーズ船としては小型の部類だが、私はこのサイズでも、いやこのサイズに満足している。私はクルーズ初心者頃にはクルーズ船を大ききさで評価していたが、この船に乗ってからその考えが変わった。

クイーンエリザベスで話をした紳士も言っていたが、船が小さいので料理が出来上がって直ぐにテーブルに運ばれてくる。それも大量生産されたものではなく一品一品手作りされた料理だ。そしてメインレストランは船の全幅いっぱい大ききなので、左舷も右舷も見る事ができる。

乗客定員は524人なのに今回の航海はコロナ対策のためか250人しか乗っていない。乗組員数は最大230人ということだが、乗客は減らしても乗組員数はそうは減らせないので、乗客と乗組員の比率はおおよそ1対1になり、そんなクルーズは珍しい。

船室は機能的で驚きが多い。最大の驚きはフット照明で、夜中にベッドから降りると足元が自動的に明るくなる。足元の変化をセンサーで見ているのだろうが昼間は反応しない優れものだ。細かい話だが洗面室のドアには指挟み防止用の蛇腹が付いている。

船室で見られるテレビは映画を何本か見ることができるが、最近主流のオンデマンドになっておらず、3日間プログラムも変わらなかった。他のサービスに比べてこれだけが見劣りする。

まあ、LPレコードの古き良き感覚を重んずるならば、それもありがたかもしれない。

■旅の記録

実施は2021年11月27日(土)～29日(月)の2泊3日、その行程を以下に示す。

- ・1日目 横浜大榎橋に13時45分集合、PCR検査実施後15時に乗船、その後テラスで軽食
16時35分に避難訓練、以降入浴、夕食、音楽鑑賞、夜食
- ・2日目 終日航海日、この間も入浴、朝昼晩の食事、各種エンターテイメント、ウォーキング、アフタヌーンティー、夜食などを楽しむ
- ・3日目 大榎橋に15時10分着岸、15時40分に下船して帰宅

総費用は2人で約16万円になった。

- ・旅行会社への入金1人当たり8万円

(クルーズ費用は11万円だが、過去3回のキャンセルで1万円×3のクーポンを充当して3万円引き、私が予約したのはスタンダードクラス11万円だったが、12万円のコンフォートクラスに船会社の都合でランクアップされた)

- ・船内で使った2人分の酒代など950円

(夕食のワイン3300円、ビール660円×2、土産330円で合計4950円使ったが、旅行会社の予約特典で4000円がオンボードプレゼントされて結果950円の請求になった)